

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	アウラ		
○保護者評価実施期間	R7年4月1日		～ R8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	R7年4月1日		～ R8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアや重症心身障がい児に対応できる専門職が配置されていること	看護師・機能訓練士(理学療法士・作業療法士・言語・聴覚士)など専門職が連携し、児童一人ひとりの身体状況や発達段階に合わせた支援を行っている。日々の体調変化にも配慮しながら安全に活動できる環境づくりを行っている。	医療・福祉・教育との連携を継続しながら、より専門的な知識や技術の向上のため研修参加を進めていく。
2	少人数制で一人ひとりに合わせた個別支援が行えること	児童の興味関心や発達段階を踏まえた活動を取り入れ、遊びやリハビリを通して身体機能や社会性の向上を支援している。	個別支援計画を定期的に見直し、保護者や関係機関と情報提供を行いながらより適切な支援を提供していく。
3	保護者と連携が取りやすい環境	送迎時や連絡帳を通じて日々の様子を丁寧に共有し、保護者の不安や相談にも随時対応している。	面談や情報共有の機会を継続し、家庭と連携した支援をより充実させていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療的ケア児や重症心身障がい児の受け入れニーズが高いこと	地域に重症心身障がい児を受け入れ可能な事業所が少なく、利用希望が多い状態となっている。	関係機関と連携しながら地域資源の情報共有を行い、可能な範囲で受け入れ体制を整えていく。
2	災害時や非常時の対応についての周知	医療的ケア児が多いため、災害時対応について保護者の不安が大きい可能性がある。	BCPの整備や避難訓練の実施、保護者への周知を行い安心できる体制づくりを進める。
3	職員の専門性向上や知識共有の機会をさらに充実させていく必要がある。	医療的ケア児や重症心身障がい児への支援は専門的な知識や技術が求められるため、職員間での知識や経験に差が生じる場合がある。	外部研修への参加や事業所内研修の実施、多職種間での情報共有を行いながら、職員全体の支援力向上に取り組んでいく。